

2016 MHC 登山講習

アルプス登攀記

夏から初冬の登山講習報告

2016 MHC 登山講習「新雪の燕崖と温泉」から

主催 NPO 法人 松本ヒマラヤ友好会<MHC>

本部事務所 松本市島立 4539-7 TEL 47-6197 FAX 47-5685

E-mail : mhc@lily.ocn.ne.jp ホームページ : <http://www1.ocn.ne.jp/~mhfc/>

共催 松本市 山岳観光課 TEL94-2307

後援 長野県教育委員会 松本市教育委員会

信濃毎日新聞社 朝日新聞松本支局 毎日新聞松本支局 読売新聞松本支局 産経新聞長野支局
中日新聞社 市民タイムス 松本平タウン情報 長野日报社 SBC 信越放送 NBS 長野放送
TSB テレビ信州 abn 長野朝日放送 テレビ松本ケーブルビジョン FM長野 長野県写真連盟



奇岩イルカ岩

目次

1. 2016MHC登山講習―剣岳立山縦走登山報告	1
2. 2016MHC登山講習―夏の表銀座、燕・槍ヶ岳縦走と氷河公園巡 り報告	4
3. 2016MHC登山講習―南アの女王初秋の仙丈ヶ岳を登る報告	8
4. 2016MHC登山講習―紅葉の涸沢、奥穂高岳・奥又白を行く報告	10
5. 2016MHC登山講習―焼岳登山と紅葉の上高地散策報告	11
6. 2016MHC登山講習―新雪の燕岳(2763m)と温泉報告	13

2016MHC 登山講習 剣岳立山縦走登山報告

7月30日 AM7:00、松本市民をはじめとする参加者14名は、集合場所黒部アルペンルート発着地、扇沢に集合。天候は晴。バス、ケーブルカー、ロープウェイを乗り継ぎ、AM9:30 室堂ターミナルに到着。階段を昇り、明るい外へ出ると、稜線に雲を被った3000m峰立山連峰を望む。見上げる上空は雲が湧く天候。ここで準備を整え、AM9:50 岩の殿堂剣岳 2999mを目指して出発する。



立山を望み整備された道を行く



雷鳥平を眼下に新室堂乗越に向かう



チングルマ



トウヤクリンドウ

室堂からは、整備された道を雷鳥沢に一旦下降、雷鳥沢からは西に向かって木道を歩き、1時間半程で大日岳との分岐、濃霧に覆われる新室堂乗越に到着。ここからチングルマの花咲く尾根道をジグザグに登り、途中休憩して昼食を摂る。PM 12:30、剣御前小屋の建つ別山乗越に登り出る。ここからいつもなら望む剣岳が濃い霧の為、白い世界以外何も見る事が出来ない、沢筋に雪の残る剣御前山腹を横切り、岩砂礫道を下降していくと、PM2:45 今日の宿、剣山荘に到着、泊す。



別山乗越を目指し花咲く尾根道を登る



剣御前山腹の雪渓を横切る



前剣から連続する岩場

翌31日、静かな晴の朝を迎える。AM3:30 昨夜作ってもらった弁当で山荘内で早朝食を摂り、準備を整え AM5:00 剣山荘を出発する。30分程で一服剣(いっぶくつるぎ)を経て、正面に高々とそそり立つ前剣(まえつるぎ)の岩峰を小1時間で乗り越え、AM6:10 前剣山頂に立つ。



カニのたてばいの絶壁を登る



カニのたてばい岩壁を登る



剣岳山頂に全員見事登頂

前剣からは、急峻な岩場が連続する。要所に取り付けられた鎖を頼りに、僅かな岩の凹凸に足場を確保し、手がかりを確認して、岩場を登り続ける。最大の難所、垂直岩壁カニのたてばいに取り付くと、まず、岩に差し込まれたピンに足を掛け、体を迫り上げ、一本の鎖を頼りに岩壁を攀じる。

岩壁を力の限り振り絞って攀じ登り、安全な岩場に一時集合して全員の無事を確認。そこから緩やかな岩稜線を20分程登りつめると AM9:00 岩峰の頂、剣岳山頂 2999mに全員見事に登頂する。

山頂で 20 分程の至福の時を経て下山開始。絶壁のカニのよこばいも難なく降下し、その後の下山は、往路とほぼ同じルートを下降する。AM11:30 一服剣、PM12:10 剣山荘に到着。山荘内で温かいカレー昼食等を摂り、腹ごしらえをすると、ほっと一息の安堵感を味わう。

PM1:30 剣山荘に別れを告げて、剣御前の山腹を登り、今日の宿に向かう。PM3:00 別山乗越到着。ここから別山へ向かう立山縦走路が始まる。剣御前小屋裏の緩やかな道を登り、別山山腹の巻き道を歩く。真砂岳の登り途中から縦走路を離れ東に向かい内蔵助山荘に向かう。PM5:00 山荘に到着、泊す。



立山縦走路別山附近からの剣岳の全貌

3日目8月1日、快晴の朝、AM5:00前、東の空を橙色に照らし、後立山の峰々の彼方から太陽が昇る。周囲の山々も橙色に照らされ、その荘厳さに思わず合掌する。準備を整えAM6:50、山荘を出発する。

20分程で真砂岳2861m登頂、ここから縦走路に出て、しばらくで大汝山への急登路を登る。小1時間で大汝休憩所到着。ここに荷を置き空身となり、すぐ傍の大岩塔、立山連峰最高点大汝山3015mにAM8:30全員登頂する。ここから尾根路を進み、AM9:00信仰の峰雄山神社に到着。小休止後、雄山山頂3003mに建つ祠へは行かず、下山開始。

岩礫の悪路を下山し始めると、小中学生の学生登山の大勢の若い学生らの列に出会う。「こんにちは!」「頑張れ、いつの日か人生の糧になるだろう」と、心に祈りながら声をかけ合ってすれ違う。AM10:15一ノ越の鞍部へ到着する。



東の空、鹿島槍の彼方から太陽が昇る



立山縦走路に行く



立山最高点大汝山3015mに登頂

小休止後、整備された、なだらかな下り道を室堂へ向かう。AM11:00 室堂バスターミナル到着。レストランで早めの昼食を摂り、PM12:15 発の長野方面行黒部アルペンルートバスに乗り込み、PM2:00 扇沢到着。ここで自由解散とするが、松本方面の参加者は、車に乗り合わせPM3:15 松本で最終解散とした。「勇気と情熱を頼りに、憧れの剣岳岩峰の登頂を挑み、立山縦走にも参加した皆様に、心から拍手と敬意を称したい。」登山だった。

MHC 登山講習責任者 MHC 理事長 鈴木雅則



7/31AM9:00、参加者全員、剣岳山頂 2999mに見事登頂。



8/1AM7:10、真砂岳 2861mに登頂



8/1AM8:30、立山最高峰大汝山 3015mに登頂

8月11日 AM5:00 JR 穂高神社前に総勢8名が集合。ジャンボタクシーで中房温泉・燕岳登山口へ向かい、小1時間で到着。準備を整え AM6:40 登山口を出発する。天候は晴。林の中の蒸し暑い急坂を、第一ベンチ、第二ベンチと休憩をしながら登る。3時間半程で合戦小屋に到着。



登山口から林の中の急坂を登る



ゴゼンタチバナ



イワカガミ



有明山背景に夏雲湧く支稜線を行く

合戦小屋で小休止後、低木帯を抜け、燕山荘へ向かう尾根道に登り出る。登る左前方に槍ヶ岳の先峰が顔を出し、後方の雲海上に有明山の平らな頂が望まれる。PM12:00 主稜線に建つ燕山荘に到着する。ここからの展望は一変し、西側に盟主槍ヶ岳が聳え、それに従うように裏銀座の峰々が、波打つように望まれる。燕山荘で昼食を摂り、不調を訴える参加者の診療所への診察時間がかかり、今日午後の登山時間を考え燕岳への登頂を諦め PM1:30 燕山荘を出発。今日の宿大天井ヒュッテへ向かって、先を急ぐ事とする。



コマクサ



燕山荘からの燕岳 2763m



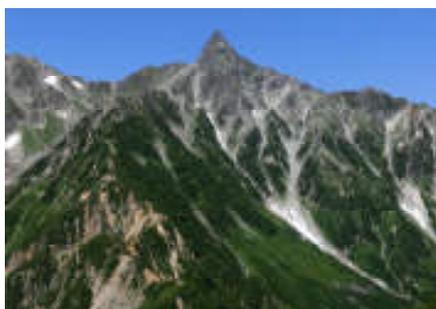
縦走路から望む槍ヶ岳 3180m



イワギキョウ

緑のハイマツと花崗岩石が林立する稜線を進む。花崗岩砂礫の斜面には、薄紅色のコマクサが群落している。シルエット状の槍ヶ岳の姿を望みながら、長い尾根道を進むと、大天井岳 2922mが大きく、高く迫ってくる。PM4:45 喜作レリーフ地点を通過、大天井岳への分岐を左に見て、大天井岳の西側山腹のガレた岩場をトラバースして降下すると、PM6:00 大天井ヒュッテに漸くにして到着、泊す。

8月12日、快晴無風の朝。AM6:30 準備を整え、大天井ヒュッテを出発。30分程で主稜線に出て、振り返る後方に、蚊帳を吊ったような頂上を持つ大天井岳、その左北方に針ノ木岳、剣岳、立山、そして西方に裏銀の山々が連なる。歩く稜線には、トウヤクリンドウ、アキノキリンソウ等の秋の花々が咲いている。登る前面右には北鎌尾根、東鎌尾根の切り立った岩稜線の頂点に、槍ヶ岳が雄々しく聳えている。AM9:30 西岳ヒュッテに到着。ここで小休止して、このコース最大の難所に備える。



西岳から東鎌尾根と槍ヶ岳



高瀬川源流天竺沢を眼下に東鎌を登る



東鎌尾根大槍ヒュッテ付近

西岳ヒュッテから、急斜面を慎重に下降し、最低鞍部の水俣乗越に1時間程で到着。ここから東鎌尾根の痩せた岩尾根に取り付く。尾根には、要所にハシゴ、クサリが整備がされ、それらを使用し、一步、一步高度をかせぐ。北側眼下には、高瀬川源流天上沢が流れ、南には、穂高岳連峰が連なり、中岳、大喰岳から流れ落ちる溪流が槍沢となって遥か眼下へ流れ下っている。



午後の槍ヶ岳

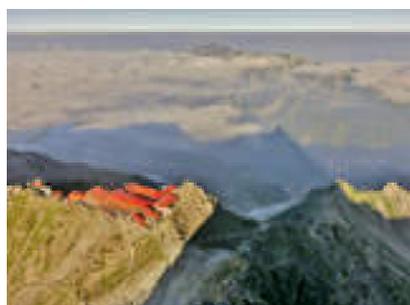


槍ヶ岳頂上直下を登る



穂高を背景に登頂記念撮影

PM12:00頃、東鎌尾根上の日陰を探し、昼食弁当を頬張る。PM1:30岩稜に建つ大槍ヒュッテに到着、ヒュッテ周辺でしばらく休憩して岩稜線を登り続ける。登るにつれ、見上げる槍ヶ岳の大岩峰が、徐々に迫ってくる。PM2:30 槍ヶ岳山荘に到着。見上げる岩峰は、槍肩まで頂を目指し登山者が列をなして、順番待ちの状態だ。これでは登頂まで2時間かかると算段し、明朝登頂を目指すことにする。



西に笠ヶ岳を望む



8/13 槍ヶ岳山荘を出発



中岳山頂からの槍ヶ岳 3180m

8月13日快晴の朝を迎える、山々を染めて、雲海から太陽が昇る。朝食後軽荷で、槍ヶ岳の岩峰を目指す。わずかな岩の凹凸に足場を確保し、手指の力でしっかりと岩をつかみ、体を迫り上げる。最後の15m程の鉄ハシゴを登り切ると、AM6:15とうとう憧れの槍ヶ岳山頂 3180mに全員見事登頂する。「おめでとう」。山頂からは360度の大展望。東に常念、蝶ヶ岳のなだらかな稜線。西に笠ヶ岳を望む。



槍ヶ岳を背景に縦走路に行く



横尾尾根を降下する



水を貯える氷河公園

槍ヶ岳を下山し、準備を整えAM7:30山荘を出発。飛騨乗越を経由して、AM8:00大喰岳に登頂。そのまま岩稜線を進み、AM9:00中岳 3084mに登頂。山頂からは、南に1000mの絶壁滝谷を控えた穂高岳連峰が聳え、北方に颯爽と天を突く槍の姿が望まれる。AM10:15横尾尾根分岐に到着。ここから縦走路を離れ、ガレた岩稜線を降下。クサリ、ハシゴが続き、危険な個所だ。AM11:00横尾尾根天狗原分岐点に到着。ここから天狗原氷河公園へ下る。

天狗ノ池では、残念なことに、槍穂先周辺で、午後雲が湧き陽が陰り、天狗池の池面も揺れ、槍の姿を映し出す事が出来なかった。この後槍沢ルートに合流し、PM3:00 槍沢ロッジに到着、泊す



槍ヶ岳山頂から望む、大喰岳、中岳、南岳の縦走路と穂高岳連峰



ヨツバシオガマ咲く横尾尾根分岐附近から望む、槍ヶ岳 3180m

8月14日快晴、沢の流れの音とコマドリのさえずりで朝を迎える。AM6:30 ロッジ出発。まず二俣、一ノ俣を經由し、横尾に下る。そこから林道を下り徳沢、明神を経て、上高地小梨平の食堂で早めの昼食を摂る。上高地からはジャンボタクシーで沢渡へ向かい、そこで待つMHCの事務所の車に乗り込み、PM2:45 松本に到着、最終解散とした。

「夏空の下、絶景の表銀座を歩き、そして憧れの槍ヶ岳 3180mに登頂し、北アルプス屈指の岩稜線を縦走した山の経験は、忘れられない思い出となった事でしょう。」

MHC 登山講習責任者 MHC 理事長 鈴木雅則



8/13、槍ヶ岳 3180mに登頂、穂高岳を背景に記念撮影。



槍ヶ岳を後方に、岩稜の縦走路を行く。

2016MHC 登山講習 南アの女王・初秋の仙丈ヶ岳を登る 報告

9月5日(土)AM6:00、上空流れる雲間から青空を覗く松本を10名が出発。中央高速を走り、伊那インターからは伊那市街を經由して美和湖畔脇の道路を走り、AM7:30 仙流荘前南アルプス林道バス停駐車場に到着。ここで2名と合流し、総勢12名となって、AM8:05 発の南アルプス林道バスに乗り込み、約1時間で北沢峠終点バス停で下車する。



林道バスから見上げる甲斐駒ヶ岳



鬱蒼とした林の中を登る



5合目から仙丈小屋ルートへ向かう

北沢峠で準備を整え、AM9:30 鬱蒼とした林の中に向かって登山開始。今回は、南アを良く知る大村会員より教えられた、2合目に直接向かう近道を登る。意外となだらかな登山道を登ると40分程で2合目、そして3合目、4合目、5合目と休憩しながら登り詰め、徐々に高度を上げていく。5合目からは、小仙丈岳への直登ルートを見ながら、右手トラバース気味に馬の背ヒュッテ経由、仙丈小屋ルートに向かう。しばらく森林帯を進むと藪沢の流れが聞こえてくる。



馬の背ヒュッテで中休止



仙丈小屋へのガラ場を登る

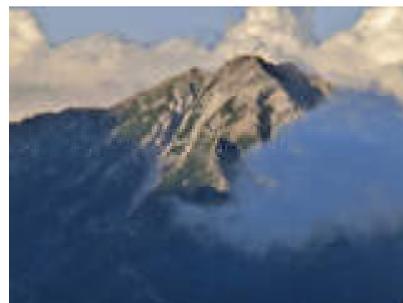


背景に鋸岳、後方に八ヶ岳を望む

飛沫を挙げて流れる藪沢を渡り、藪沢筋からの道と合流すると、鹿害ネットと丸太で整備された登山道に出る。人の声が聞こえてくるとPM12:00 丸太造りの馬の背ヒュッテに到着する。ここで中休止し昼食を摂り、水を補給する。昼食後馬の背ヒュッテを出発。小一時間で這松の稜線に登り出ると、雲海の北方に甲斐駒ヶ岳と鋸岳が連なり、その後方に八ヶ岳連峰が望まれる。雲が湧き、それ以上の展望は効かない。仙丈カールのガラ場を登り、PM2:30 仙丈小屋に到着、泊す。



仙丈小屋



雲海上に甲斐駒ヶ岳を望む



翌朝鋸岳、八ヶ岳を背景に稜線を行く

AM5:00 前、山頂で日の出を拝する為、10名の参加者が早起きし、出発する。大村会員が先導し、ヘッドランプを照らしながら、暗闇の中に消えていく。太陽が昇り陽が射すと山頂に人影が見える。山頂では南に富士山を望む天候。その後少し稜線を歩き、朝食前に小屋に引き返す。

AM6:45 あらためて準備を整え、仙丈小屋を出発。朝陽に照らされた仙丈カールを一步一步登り詰め、AM7:15 仙丈ヶ岳山頂 3033mに登頂する。「おめでとう」。朝の暖かな日より照らされて、しばらくのひと時を過ごす。山頂から南には、南アルプスの重厚な 3000m峰の山々が連なって望まれる。



仙丈ヶ岳 3033mの威容



山頂へ向かう稜線を行く



AM7:15 仙丈ヶ岳山頂に見事登頂

山頂では憩いを楽しんだ後、下山を始める。心地よい陽を受けて、緑の這松帯の稜線を降り続け、眼下に広がる紅葉と展望を楽しむ。小仙丈ヶ岳でまた一腹。そこから藪沢への分岐点のある 5 合目まで降り続け、五合目からは、1 合目ごとに小休憩して、秋山登山を惜しみながら、2 合目からは近道を下り AM11:30 北沢峠に到着する。



山頂から小仙丈ヶ岳へ向かう稜線を行く、前方に甲斐駒ヶ岳 2966mを望む

北沢峠で昼食後、南アルプス林道バスで往路を下山し、PM2:00 仙流荘前バス停に到着。PM3:00 全員帰還の途に就く。PM4:30 松本に到着、最終解散とした。

「まさに南アルプスの女王、仙丈ヶ岳の山懐に入って優しく抱かれ、その美しさに癒された、思い出深い登山だった。」

MHC 登山講習責任者 MHC 理事長 鈴木雅則

2016MHC 登山講習 紅葉の涸沢・奥穂高岳・奥又白に行く

9月17日 AM6:30 参加者6名が松本を出発。沢渡で2台のタクシーに乗り換え上高地へ向かう。雲間に青空を仰ぐ天気模様。新釜トンネルを抜け、シラカバ林の車道を廻ると、上空、雲に覆われた穂高岳が望まれる。バスターミナルの広場で全員準備を整え、AM8:00 出発する。森林帯の林道を、明神、そして徳沢を通り過ぎると、徐々に雲が上がり、梓川畔から対岸に聳える前穂高北尾根を眺めながら歩き進む。AM11:45 穂高岳と槍ヶ岳の分岐点横尾に到着する。



河童橋袂で記念撮影



前穂高東壁を仰ぐ



横尾から梓川を渡る

横尾の木陰で昼食後 PM12:30 涸沢を目指し出発。河原を30分程歩くと、左手に屏風岩の大障壁が望まれる。PM1:50 沢が合流する本谷橋に到着。小休止後、急坂の岩道を1時間も登ると、赤く色づくナナカマドの低木帯が広がり、霧に覆われた涸沢が見えてくる。PM4:00 涸沢ヒュッテに到着、泊する。吊尾根の彼方に夕日が沈む頃、冷たい雨が降り出した。



河原の道を行く



屏風岩の大障壁



本多出合からの岩道を登る

9月18日、本格的な雨の朝を迎える。霧雲が低く垂れ込め、雨の強度から長雨を警戒し。朝食後、穂高岳、奥又白への登山中止を決断する。涸沢ヒュッテでその旨伝え清算し、AM7:30 準備を整え横尾へ下山を開始する。



霧に煙る涸沢を望む



涸沢の石畳を登る



ナナカマドが紅葉するの登山道

雨中、滑りやすい岩道に足場を注意しながら足早に降りていく。横尾を経由して、徳沢ロッジで中休止し、熱いコーヒーを啜りながら冷えた体を温める。その後林道を歩き、PM12:00 小梨平の食堂で昼食を摂る。上高地からは往路と同じようにタクシーに乗り、沢渡を経由して PM3:00 前松本へ無事帰還する。

「どんな条件でも、冷雨に濡れても、山を愛する心を持つ参加者の皆様に敬意を称したい。」登山だった。

MHC 登山講習責任者 MHC 理事長 鈴木雅則

2016MHC 登山講習 焼岳登山と紅葉の上高地散策

10月22日(土)AM6:00 参加者7名が松本を出発。沢渡で2台のタクシーに乗り込み、安房峠途中の焼岳登山口へ向かう。天候は高曇。新安房トンネル手前で左へ曲がり、車は安房峠への蛇行する急坂道路を登り、7曲り目の中の湯温泉を通過し、11回目の曲りで下車、登山口によりやく到着する。

登山口前で準備を整え、AM7:30 出発する。紅葉に色づき始めた森林帯の急坂を登る。旧中の湯ルート of 合流点を通過するとダケカンバの低木帯が立ち並び、熊笹茂る広場に出る。展望が開け、見上げると山頂近くから白煙が昇っているのがすぐ近くに望まれ、硫黄臭もしてくる。



紅葉に色づく登山道を行く



ダケカンバ上空に山頂を仰ぐ



山頂近くから上がる白煙

ここから、ゴロゴロした岩場の山肌を、ジグザグに1時間強程登ると、北峰、南峰の山頂を結ぶ尾根に登り出る。眼下に窪み状の火口があり、水が溜まっている。右に聳える北峰 2444m 脇から、白煙が勢いよく噴き上げているが、左に聳える焼岳最高点南峰 2455m は登山禁止となっている為、北峰を目指して、白煙吹き出す脇の岩場を登り、AM11:30 北峰に、見事全員登頂する。



山頂近くの岩場を登る



北峰 2444m に見事登頂



高曇の朝、上高地から焼岳を望む

山頂からは、眼下に、蛇行して流れる梓川、紅葉に染まる上高地。北に、豪快にそそり立つ穂高岳の威容が望まれ、岩稜線を辿るとさらに北方に、突起状の槍ヶ岳を遠望する。西に目を移せば、双六岳から笠ヶ岳 2898m への重厚な稜線が連なる。冷風を避けて、山頂で30分程中休止、昼食を摂り下山を開始する。小一時間で峠に建つ焼岳小屋を経由して、岩場の急斜面では、取り付けられたハシゴを駆使しながら降下する。

下山する正面には、秋色に染まる霞沢岳 2646m が快々しく美しい。しばらくで緩やかな傾斜の唐松林を歩き続け、PM3:30 登山口に到着。梓川畔を歩き PM4:00 今日の宿市営上高地アルペンホテルに到着、泊す。



河童橋からの秋の穂高岳



白樺林と紅葉の梓川左岸を行く



上高地アルペンホテル昼食風景

10月23日(日)時折青空を覗く高曇の朝を迎える。AM8:30 ホテルを出発し、河童橋を經由して梓川左岸に行く。槍ヶ岳を水源とする梓川の清流が流れる上高地、その川に架かる河童橋周辺から、秋色に染まる穂高岳、焼岳を望む。梓川左岸を歩き、途中、林を通り抜け、帝国ホテルへ向かう。帝国ホテル喫茶室では、熱いコーヒーと上等なケーキで、私達の焼岳登山を祝った。



山頂からの大展望、穂高岳と上高地を望む。



梓川左岸の唐松林と清流の流れ

帝国ホテルから、田代橋を經由して、20分程で田代湿原に到着する。そこは、清水が流れ、自然の奥行きを感じさせる。この日は霧雲が低く立ち込め一層神秘的な世界を演出している。湿原を抜けて進むと、大正池畔に辿り着く。観光者も大勢訪ねてくる賑やかな場所だった。

冷風吹く大正池畔を避けて、大正池ホテル展望食堂で昼食を摂る。そこから2台のタクシーに乗り、沢渡を經由して、PM2:30、松本に全員無事到着、解散とした。

「白煙上がる焼岳に登り、晩秋の穂高連峰を仰ぎ、紅葉に彩られた上高地を散策した思い出深い感動」の登山だった。

MHC 登山講習責任者 MHC 理事長 鈴木雅則

2016MHC 登山講習 新雪の燕岳 2763mと温泉 報告

11月19日(土)AM6:30、県安曇野庁舎駐車場に7名が集合、天候は雨。1台のジャンボタクシーに同乗して出発。道路凍結を心配しながら渓谷沿いの蛇行道を中房温泉へ向かう。道路上に積雪は全く無く、拍子抜けしながらAM7:30中房温泉入り口手前のタクシー乗降場に到着。準備を整えAM8:00、全員冬山装備を着用して出発する。



林の中、雨の急坂を登る



合戦上部の雪道を踏んで登る



花崗岩砂礫道の支稜線を登る

森林帯の中、急坂を第一、第二ベンチと、ほぼ30分毎に小休止をしながら登る。例年なら積雪のある第三ベンチにも雪が無く、本格的な雨が降る。林の中の急坂を登り、一気に高度を上げる。遠望の効かない富士見ベンチを通り抜け、PM11:50無雪の合戦小屋に到着。小屋閉め前の様子の中、室内のテーブルで、熱いコーヒーを啜りながら昼食を摂る。

中休止の後、相変わらずの雨降りの中、20分程で主稜線に続く尾根に登り出る。天気ならば尾根道の高みに燕山荘が望まれるが、視界は全く効かない。この付近から雪を踏む。しばらくでアイゼンを穿き、冷雨の中、急な勾配の、氷雪尾根を一步一步登り詰めPM2:00燕山荘へ、ようやく辿り着く。



東の山稜線から朝日が昇る



富士の姿もシルエット状に望む



朝陽を浴びる燕岳

宿泊手続きをして、今日の悪天候と皆のずぶ濡れ状態を思案し、明日山頂を目指す事にする。濡れた装備を点検し、身体の様子を確認すると、以外にも体温の消耗が激しいようだ。体が冷えている。もう少し遅く着いたら、気温が低くなっていたら、危なかったかもしれないと、反省する。



イルカ岩など奇岩が林立する燕岳



槍ヶ岳を背景に山頂を目指す



そそり立つ北アの盟主槍ヶ岳 3180m

11月20日(日)AM6:00起床。東の空が橙色の染まっている。無風快晴の朝だ。西に望む北アルプスの峰々も全山その姿を現している。大勢の登山者が、外に出て、写真撮影に忙しい。

朝食後AM8:00、冬山装備を着用し、アイゼンは付けず、凍てついた花崗岩砂礫をしっかりと踏んで登る。振り返ると南に山容の大きな大天井岳2922m、天を突く槍ヶ岳を望む。林立する花崗奇岩石の間を通り抜けると、AM8:45燕岳山頂2763mに、見事全員登頂する。「おめでとう！」

山頂からは、雲を被った裏銀座の山々、北方には、北燕岳、その後方に針ノ木、鹿島槍ヶ岳、東の雲海上には、浅間山、八ヶ岳、富士山がシルエット状に望まれる。

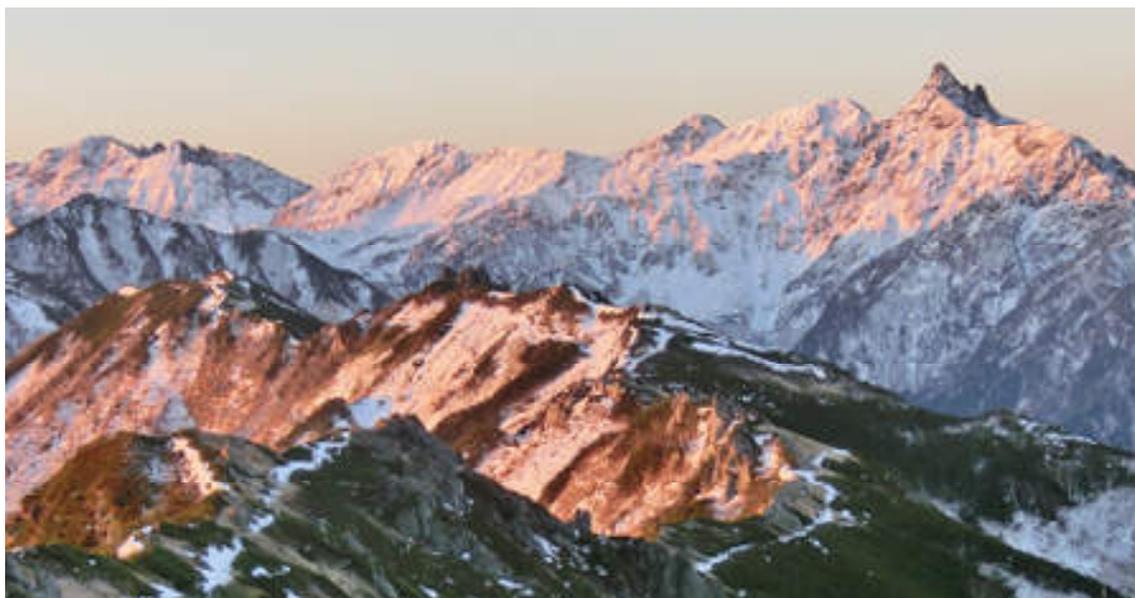
皆と登頂の喜びを分かち合った幾つものピーク、思い出の山々に感慨を深くする。冷風の中、15分程山頂に留まった後、往路を引き返しAM9:30山荘に帰還する。



頂上直下の岩稜線を登る



燕岳山頂2765mに見事登頂する。



朝陽を浴びて輝く、槍ヶ岳3180m

AM10:00、燕山荘に挨拶をして、往路と同じルートで下山を開始する。花崗岩砂礫の下山道の滑落を注意しながら支稜線を下る。合戦小屋からは、森林帯の急坂を慎重に降り続け、AM1:55登山口に到着する。

登山口脇の中房温泉で一汗を流した後、熱いうどんで腹を満たし、PM2:50ジャンボタクシーに乗り込み、往路と同じ道を走り、PM3:45県安曇野庁舎駐車場に無事帰還、最終解散とする。ご苦労様でした。

「氷雨降る初冬の登山であったが、参加者の情熱と勇気に敬意を称したい燕岳登山講習だった。」

MHC 登山講習責任者 MHC 理事長 鈴木雅則